

ヒューマンケア通信 (Vol.15 H23年7月1日)

=真心絶品 関東店オープン=

今回は、国立病院機構埼玉病院の敷地内に新店した「真心絶品 Cネット関東店」の報告です。

<真心絶品 Cネット関東店が始まる>

さる6月23日に、国立病院機構埼玉病院の敷地内に、障害者就労継続支援事業A型の出張所として「真心絶品 Cネット関東店」がオープンしました。

当日は、国立病院機構埼玉病院院長はもとより、地元和光市関係者の他、翠会ヘルスケアグループの関係者、日本財団の関係者、出店の親元であるCネットふくいグループの関係者が集い、夏至の高い太陽の下で、ささやかな式典が行われ、実験的な取り組みがスタートしました。

まず、これまで、この実現に向け協力をいただいた、国立病院機構、翠会ヘルスケアグループ、日本財団、厚労省・福井県関係者の皆様に御礼を申し上げるとともに、これからのCネットグループの努力により、この小さな取り組みが障害者雇用のモデルに大きく成長することを願うものです。

また、当初は種々の問題があると思いますが、皆さまのご支援をいただければと思っています。



<始まりは 6年前>

この企画の元は、私が、支援費制度の失敗から新たな制度構築を検討する役割を担っていた時代に遡ります。当時の課長であった村木さん、企画官の伊原さん、補佐の間さんと どのように障害者の雇用を進め、本人の収入を上げるとともに社会的費用の伸びを少しでも抑えられないかと意見交換していた時の話です。

誰かが、「障害者の雇用、就労を支援している全国の事業所の例をみると、病院や福祉施設が外部に委託している仕事ですね。」と発言し、個人的に、「食事、洗濯、清掃、施設管理等、確かにそうだな」と思い、その後、機会あるごとに、医療関係者や障害事業者に個人的に話をしてきましたが、なかなか広がることはありませんでした。

理由は、「医療関係者と障害就労支援関係者が出会う機会がない」「関心を持つ医療関係者がいても周囲にはその意欲ある障害事業者がない」「就労支援事業者のほとんどは、公的部門の優先発注等にご執心で新たな仕事を開発する意欲が乏しい」といったことと思います。

障害福祉の仕事から離れ、国立病院機構、翠会ヘルスケアグループと医療経営の仕事を経つつも、いずれ実現したいと考えていた企画です。問題は、チャレンジする障害事業者がいるかという一点でした。

<Cネットグループと再会する>

昨年1月に翠会ヘルスケアグループの事業再生に成功して、常勤職員としての立場を離れ、4月に今の仕事の形態を始めるまでの間に、Cネットグループの松永さんと再会しました。松永さんはお子さんの一人が知的障害であったことを契機に、福井の親の会の運営にはじまり、今のCネットグループへと成長を図った人であり、一時期は全国の親の会の立て直しを担った経験もある人です。私が障害行政を担っていたときに、なぜか馬が合い、地元福井で講演を頼まれ気楽に引き受け、行ってみたら実は公開講座で、街中にポスターが貼られ両親をはじめ、親戚一同の知るところとなり、講演当日は、当然のように一同が聞いているという、人生において「最も緊張する時間」をいただいた過去があります。また、全国の親の会で彼が働いていた時期の会長（仲野義雄氏 故人）が、私の姻戚（伯父の義父）であったという縁もあります。

福井での縁から5年近く、特に連絡もしていなかったのに、不思議なことに、ちょうど一番暇にしているときに再会するという廻り合わせでした。当方の近況を話し、彼から依頼されたことは2点ありました。

一つは、Cネットグループを外部から評価して欲しいということ、もう一つは、関西店を出したので関東店の出店に協力をして欲しいということです。後者の依頼は、当方にとって「渡りに船」であり、積極的に関わることになったものです。もちろん、これは地元への貢献の意味もあるので、Cネットの管理職教育支援も含めて、関わりを始めることになりました。

Cネットグループの概要

(1) 関連法人等

- ・社会福祉法人(就労継続支援A型事業等) Cネットふくい
- ・NPO法人(就労継続支援B型事業) 福祉ネットこうえん会・ピアファーム・若狭美&Bネット
- ・農業生産法人シーネット坂井、株式会社 エコファーム、有限会社C・ネットサービス
- ・支援団体C・ネット福祉会

(2) 主要事業等

総売上 年間 約6億(公的補助金等を除く)

ベイク事業、フード事業(学校給食、宅配弁当等)、ギフト事業、ハウスキーブ事業、営農事業、リサイクル事業等

(3) 障害者雇用等

- ・現在、当法人と雇用契約を締結した障害者数は260名以上(日本最大級の就労系福祉法人)
- ・平均的な月額給与は66,500円(最高140,000円)。
- ・重度の障害があっても、働きたい人の賃金は最低賃金額の5割以上と定めている。

<参考>

就労系福祉事業で働く障害(就労移行・就労継続A・B型)者の全国平均賃金は約4万円。

<Cネットグループを国立病院グループ・翠会ヘルスケアグループと結び付ける>

Cネットグループにとって関西店、関東店は、市場規模が縮小する福井県を出て販路を拡大し障害者の雇用や福井への経済に貢献するという意味があります。

一方、これと提携する先にとってもメリットがなければなりません。単なる「慈善」の発想では、Cネットの事業展開に甘えが出て長続きしません。また、これは障害者自立支援法を仕掛けた人間としての信念でもあります。誰かの援助を当てにした事業展開ではなく、税金を投入する事業である以上、自らの知恵と工夫で成長できる事業者が主体となり、かつ関わる人全員がメリットを受けるものであるべきです。その意味で、今の場所が良いと考えたのは、次のような理由です。

- ① 埼玉病院周辺には、コンビニや食事をする場も少なく、病院で働く人にとって選択肢が少ない。
- ② 隣接する翠会グループの高齢者小規模多機能事業所には、遊休の厨房施設があり、またグループ全体では事業所内保育所等の食事の質を上げたいと考えている。
- ③ 近隣に高齢化の進んだ住宅団地もあり、間もなく買い物支援等のニーズが高まる地域である。
- ④ そこで提供する商品はトレーサビリティ（農産物や加工食品などの食品が、どこから来て、どこへ行ったか移動を把握できること）が確実であり、安心安全を提供できる。

そこで、まず埼玉病院の企画課長に声をかけてみました。国病時代に、この人は「できる人だな」と思った人が、たまたまそこに居り、簡単に趣旨を説明すると「面白いですね」の一言。最大の懸念は、「本部の手続きですね」との由。すると不思議なもので、こちらから連絡する前に、国病グループの副理事長から連絡があって会う機会ができ、この話を相談すると「面白そうだね」とのこと。さらに「何か手続きで困ったら教えてくれれば 支援するよ」とのありがたい言葉をいただくことに。

後は、埼玉病院の企画課長に面倒な入札手続の準備を進めていただき、「間口」は用意していただけることになりました。もちろん入札ですから、最終的に契約できるかどうかは、事業者間の競争であり、そこはCネットの知恵と熱意が問われます。しかし、こうした間口を広げてもらえるだけでも大きな前進でした。人のつながりは大事だなと実感したものです。

また、翠会グループには隣接する小規模多機能事業所の食事提供の業務を受託し、その時間帯以外にも、水道光熱費等の実費負担で厨房を利用させてもらえることになりました。さらには、両グループ間で協定書を締結し、翠会グループの精神障害者に係る支援技術とCネットふくいグループの障害者就労支援に係る技術との交流や、職員研修等の交流を図ることになり、女子寮も職員価格で利用できることとなりました。

こうして3つのグループの連携が整い、関東店オープンが近づいてきました。

<厚労省・福井県の判断>

最後の壁は、この関東店が、障害者就労支援継続事業の出張所に該当するかという問題でした。

実は、関西店の際も、福井県障害福祉課、厚労省障害福祉課は問題ないという判断にも関わらず、厚労省近畿厚生局で、しばらくの間、出張所に該当するか否かで、「店ざらし」になっているという現象が起きていました。

障害者自立支援法は、事業展開について徹底して規制緩和をしたことから、こうした出張所の展開は当然可能なのですが、どうしてもその経緯を知らずに、通知等の書面だけで形式判断をするだけの窓口行政部門では、過去の前例にとられることが起きます。

関東店の場合にも、これと同じような現象が、出張所の認定をする福井県で生じました。最終的には、Cネットグループが継続して国の研究事業に協力してきた実績もあり、制度所管をする厚労省に、直接、問い合わせを行い、「出張所に該当する」と判断され、最終的に福井県の認定を受けることもでき、正式オープンに間に合いました。

<真心絶品とは何か？ 関東店のサービスは？>

店名である、『真心絶品』とは、障害者施設で作られた製品の中から本当に優れたものだけを厳選し、その魅力を多くの人に知ってもらうことを目的とした日本財団のプロジェクトです。

従来の福祉的要素を排除し、「一般消費者の視点から商品をセレクト」することによって、優れた施設製品だけをブランド化し、新しい付加価値を生み出すことを目的としています。現在はコンビニの調達責任者の意見等も取り入れ、本当にプロの目を通ったものとなっています。

販売ルートは、基本的にはサイトによるインターネット販売<<http://www.magokoro-zeppin.com/>>ですが、そのアンテナショップの意味合いとして、Cネットグループが展開する関西店、関東店を活用するという形です。

したがって、関東店では、私の地元福井の食材のほか、全国の産品（障害事業者のつくったもの）に触れることができます。



23日の1F店舗内は、コシヒカリ無洗米、焼サバなどの福井の製品のほか、福島（障害事業産）の新鮮野菜なども陳列販売され、想像以上に準備が整っていました。

2Fのイトインでは、開所式参加者に、劇団民芸の俳優だった故宇野重吉氏も愛した福井のそば「越前そば」もふるまわれ、味も好評でした。この2Fのスペースは、地域の交流空間＝高齢者・子供・障害者が集う空間へと成長することも楽しみです。敷地内には、大きな桜の木もあり、ウッドデッキで、春は花見も・・・しかし残念なことに、お酒は販売していません。



もう一つの厨房を活かした弁当・食事提供は、福井で基本的な調理を行い、チルドの技術を活かして東京に搬送し、必要最小限の調理を東京で行うようです。前日には、埼玉病院関係者対象の試食会もあり、病院企画課長の話では、院長以下、好評だったようです。企画課長からは、「女性が多いので、量を減らして簡単なデザートを付けて300円なら、きっと、忙しくて院内のコンビニ弁当ばかりの病棟看護師も買うのでは」との話もありました。一方、6月に入って始まった翠会グループの小規模多機能への食事提供に関し、翠会の管理栄養士（女性）の方からは、「委託した食事の品質に、あれこれ注文をつけているので、厳しい人と思われるのかも・・・」との話も。

こうした周囲の方の提案・叱責に対して、関東店の責任者が一つひとつ誠意をもって対応していけば、きっと良い事業、競争力のある事業に成長していくはずです。内にこもらず、外の風に積極的に当たる。これでこそ、就労支援事業です。（翠会の管理栄養士の方には、もっと厳しく言って欲しいとお願ひしました！）

<今後の展開は？>

さて、始まったばかりの関東店ですので、まず、この事業の安定化を図ることが大事です。

病院のスタッフや小規模多機能の利用者の皆さんの声などを反映した弁当・食事を安定的に作れるようになること、地元の皆さんに受け入れられるような店づくりを進めること、そして病院との約束である「雇用する地域の障害者の方を5名以上（現在4名を試用期間）」とすることが必要になります。また、国病・翠会両グループの職員の福利厚生として、「お得な」各種ギフトを提供することも今後の課題です。

その次は、近隣の高齢化した団地を対象としたサービス展開、病院の施設管理業務等の請負（もちろん入札で）などを通じて、障害者の雇用数を増やし、出張所から独立した事業所として成長することが目標になります。

さらに、松永さんとは、埼玉での経験を全国に活かし、他の障害事業者ノウハウを移転して・・・他の地域でも国立病院機構と障害者就労支援事業所の提携事業を広げていければと話をしています。日本財団も、こうした店舗を「全国に500店」との目標をもたれていますので可能性は広がります。また、元政策担当者としての個人的な立場からも、この埼玉での「実験」が自立軌道に乗れば、きっと、国・自治体に「おんぶにだっこ」が前提の障害事業経営者へのモデル提供になると考えています。

遅れていますが、夏にはHPを立ち上げ、種々の展開も考えていますので、ぜひ、皆さんも、一度、店舗やHPを覗いてみてください。そして、気付いた点をぜひ、吉武店長やスタッフ、私にも伝えてください。

最後に一言 吉武店長の人柄も今回の店の「売り物」です。どうぞ 彼を ご臍臍に。

ヒューマンケア・システム研究所
代表 北川博一